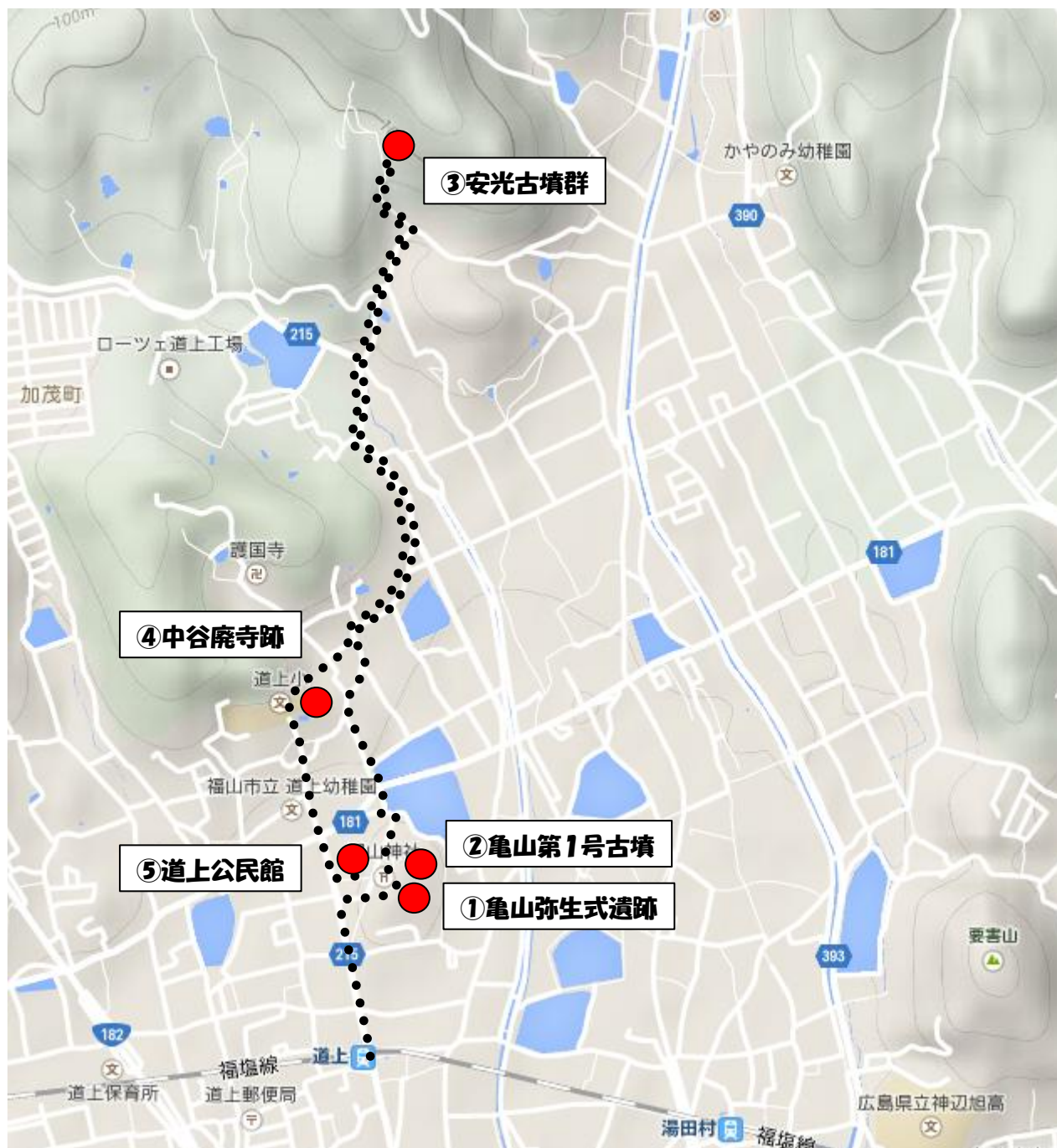


第33回 親と子の歴史ウォーク

初夏の神辺路を訪ねる



2015年5月5日

主催：備陽史探訪の会
後援：福山市教育委員会

第33回 親と子の歴史ウォーク 行程

○5月5日（火） 晴れ！

※ 福塩線「道上駅」から道上公民館まで歩きます。

（スタッフの指示に従ってください）

10時 開会式



● 亀山弥生式遺跡（県指定史跡）の探訪



● 亀山第1号古墳の探訪



● 安光古墳群（カンカン石古墳）の探訪



● 中谷廃寺跡（県指定史跡）の探訪



12時半 昼食（道上公民館）

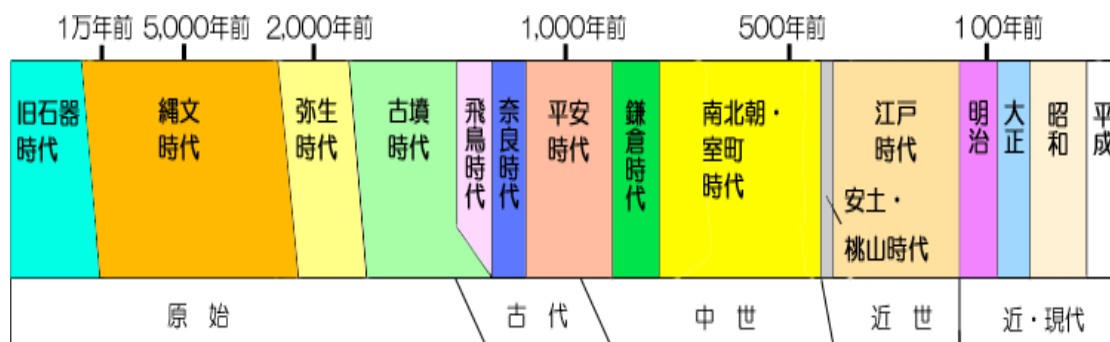
● 古代人に挑戦！

① 勾玉づくり体験

② 「古墳博士」の考古学クイズ



15時半 閉会式



日本史年表

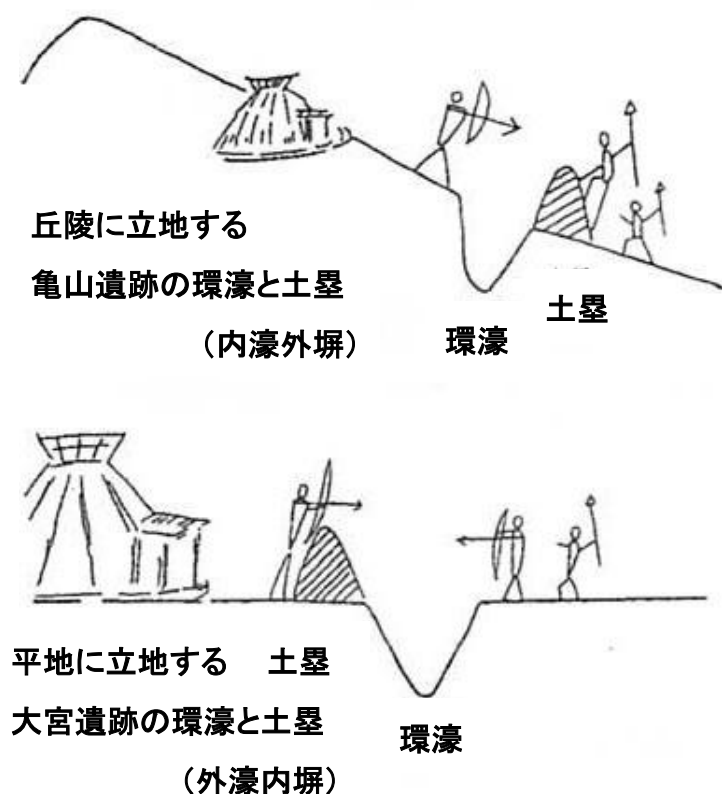
亀山弥生式遺跡（弥生時代のムラの跡）

神辺平野の中央やや北寄りに亀山と呼ばれる標高約 37mの丘陵があります。この丘陵（東西約 250m、南北約 350m）のほぼ全域に広がるのが「亀山弥生式遺跡」です。このうち、南側を中心とする部分が史跡に指定されています。

昭和 32 年（1957）と、昭和 56～60 年（1981～1985）に発掘調査が行われました。

調査の結果、地下深いところから、ヘラで描いたような模様のある土器が見つかりました。この土器は、弥生時代前期前半（紀元前 2 世紀頃）のもと考えられ、今から 2 千数百年前に、この場所に人が住んでいたことがわかりまし

亀山遺跡と大宮遺跡の環濠と土塁の関係



さらに、クシで描いたような模様の土器（紀元前 1 世紀頃）も見つかっています。

この遺跡の特長は、周囲に濠がめぐらされていたことです。

濠の内側には、当時の人たちが住んでいた住居の跡（竪穴式住居）や、木の実などを蓄えておいた穴などがみつかります。

出土した遺物として、土器のほか多量の石鏃、石庖丁、石斧など、各種の石器があります。

備後地方の初期の農耕生活を示す遺跡として重要であることから、広島県の史跡に指定されています。

かめやま 亀山第1号古墳（古墳時代の有力者の墓）

亀山弥生式遺跡の集落の内側となっている、丘陵の北側に古墳が見つかっています。

亀山弥生式遺跡とは時代が数百年も違いますから、このムラに住んでいた人の子孫の墓かどうかはわかりません。

古墳は2基あり、第1号古墳（径28m・高さ約2m）は円墳です。ここからは、割竹形木棺わりたけがたもつかんをねん土で包み込んだ埋葬施設ねんどかく（粘土槨ねんどかくといいます）が見つかっています。

この古墳からは、三角板革綴短甲さんかくいたかわたじたんこうと呼ばれるヨロイのほかに、鉄剣・鉄刀・鉄の槍などが出土しました。

これらの遺物の特長から、古墳が築かれた時期は5世紀前半と考えられています。

また、南頂部の第2号古墳（径22m）からは、石を板状に加工したものを組み合わせてつくった箱式石棺が見つかっています。そして、鉄器片が出土しました。

この古墳も、築かれた時期は5世紀代と推定されています。



三角板革綴短甲

安光古墳群（古墳時代の横穴式石室）

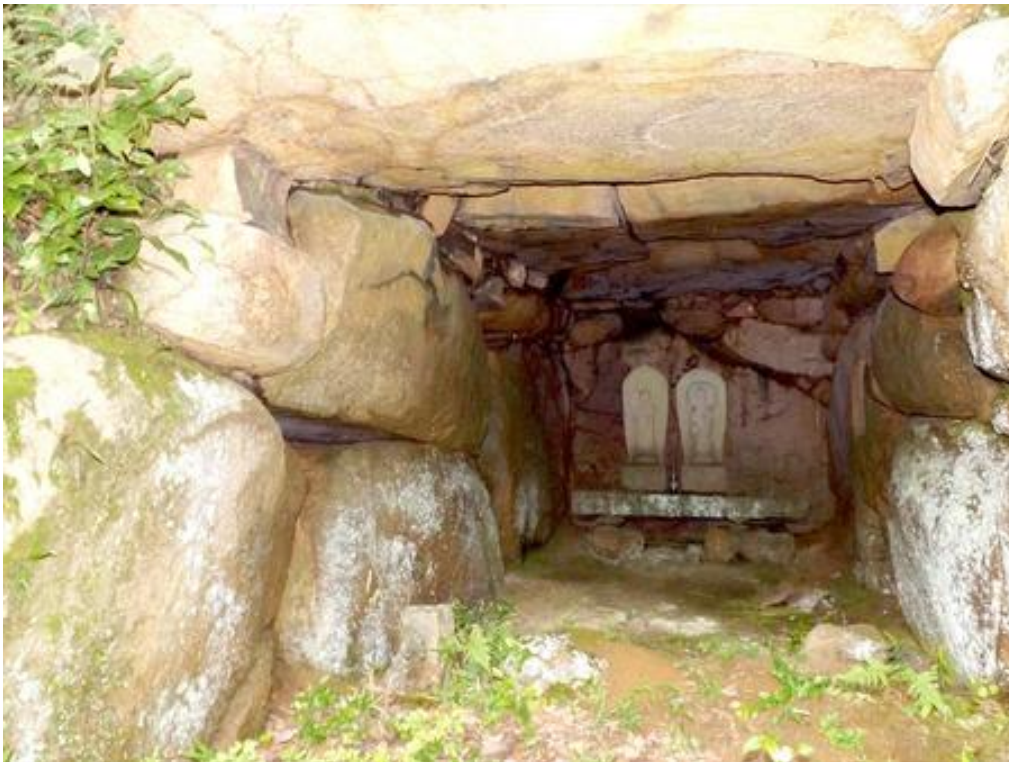
古墳時代の後期といわれる6世紀ごろになると、1ヶ所に小規模の古墳がたくさん造られることがあります。

多くは山の斜面を利用して造られ、数は2、3基から多いものは何十基もあります。このような小さな古墳の集まりを「群集墳^{ぐんしゅうぼん}」と言います。

安光古墳群では、今のところ、5基の古墳が見つかっています。

その中でも一番大きい古墳は「カンカン石古墳」と呼ばれています。この古墳は長さ約7.8m、幅1.5mの横穴式石室を持っています。

なお、石室の奥には石仏がおまつりされていますが、古墳時代のものではありません。



このほかにも、斜面のあちらこちらに古墳を見つけることができます。どれも横穴式石室ですが、こわされているものが多く、くわしい時代などはよくわかっていません。

なかににはいじあと
中谷廃寺跡（古代のお寺の跡）

中谷廃寺跡は、今から約 1300 年余り前にたてられ、平安時代まであったお寺の跡です。

道上小学校の校門を入るとすぐ目の前に建物跡（第 2 建物）があります。飛び飛びに並んでいる石は礎石そせきといい、この上に柱が立てられ、講堂があったと考えられています。ちなみに、講堂は説教や講義が行われる建物です。

また、校舎を建てるときの調査で、第 2 建物の南西側で第 1 建物も見つかりました。この建物は、塔であったと考えられています。



中谷廃寺が立てられた時代のお寺には、多くで塔と講堂のほか金堂こんどうがたてられます。

金堂は、本尊ほんぞんを安置あんじやする建物です。中谷廃寺跡の場合、第 1 建物が塔であり、第 2 建物が講堂であったとすれば、金堂は第 2 建物の南東側に、塔と並ぶようにたっていたのではないかと考えられます。ちょうど校門の東側あたりになります。

金堂・塔・講堂が、もし推定するようにならなければ、奈良県にある法隆寺と同じ配置となります。法隆寺のように講堂の前に塔と金堂が並ぶタイプを、法隆寺式伽藍がらん配置と呼びますが、広島県にはほかに見つかっていません。





備陽史探訪の会

【事務局】

〒720-0824 広島県福山市多治米町5-19-8

TEL 084-953-6157

E-mail info@bingo-history.net

公式サイト

<http://bingo-history.net>